

令和4年度横浜ユーラシア文化館企画展開催のご案内

## 「江上波夫没後20年 ユーラシアへのまなざし—造形的美と技—」



銀製牛頭飾リュトン

イラン 紀元前 600-400 年

リュトンは飲酒用の容器。牛の頭部と前  
軀が動物の角の形をした器に接合してい  
る。牛の風格ある顔立ちが見どころ。

## 5000年にわたるユーラシア諸地域の文明を彩った造形の数々

## その美と技に迫ります！

## 【展示趣旨】

横浜ユーラシア文化館のコレクションは旧石器時代から現代までのユーラシア諸地域の文物からなり、その礎を築いたのは著名な東洋学者江上波夫氏（1906-2002年）です。本年、江上氏の没後20年という節目を迎えます。

本展では、その江上コレクションの中でも未公開資料を中心に、氏が長年関心をもち魅了された造形世界を探求します。動物の形をした西アジアの土器や美しい輝きを見せるイスラーム陶器、中国の帯鉤（ベルトのバックル）や馬具、モンゴル文字によるモンゴル語文書など、時代も地域も異なる多彩な資料を展示します。最新の研究成果も踏まえて、西アジア、東アジア、東南アジアの造形文化をお伝えします。

【開催期間】2022年11月17日（木）～2023年2月12日（日）  
毎週月曜日、年末年始12月28日（水）～1月3日（火）は休館  
ただし、1月9日（月）は開館、1月10日（火）は休館

【会場】横浜ユーラシア文化館 3階企画展示室

【開館時間】9時30分～17時

【観覧料】一般 300円、小・中学生および  
横浜市内在住 65歳以上 150円

【展示点数】約460点（初公開資料約390点）

【図録】B5判 48ページ フルカラー

## 江上波夫（1906～2002）

江上氏の研究は東洋史など学問の枠を超えて、幅広い視野と強い探求心によってその対象は世界に広がった。内モンゴルでのキリスト教建造物址の発見や日本人による初めての西アジアにおける発掘調査は特に有名です。人々の営みという人類の歴史に対しても興味を持ち、さまざまな資料が収集された。その一部が晩年を過ごした横浜市に寄贈されたことを受け、2003年に横浜ユーラシア文化館が開館した。

## 【展示の見どころ】



楔形粘土板文書

南イラク ウル第3王朝 紀元前2000年頃

紀元前3000年から現代までの各地の文明を彩った様々な文物を詳しく解説します。

### 世界最古の書類

古代メソポタミアで生まれたくさびがたもじ楔形文字が刻まれた粘土板文書。内容は物品の受け渡しの記録。今回収蔵する粘土板文書321点全てを初めて展示します。

【初公開】

### 中国山岳民族の美しい民族衣装

中国貴州省の山岳地帯に暮らす苗族の女性用上衣。上衣の襟足、肩、袖などに縫い付けられた色鮮やかで緻密な刺繍が見どころです。麻や絹を育てることから始まり、染織、縫い上げて刺繍を施すという全工程を女性が家で行っていました。

女性用上衣

中国 貴州省 苗族 20世紀



江上のユーラシアの造形に向けたまなざしを紹介。造形物を研究対象として見るだけでなく、その背景にある製作者や使用者にまで思いをはせて言葉を残しています。

### 謎のルリスタン青銅器

イラン西部の山岳地帯のルリスタン地方から出土する青銅器。まだ不明なことが多く謎の青銅器文化です。左の作品は馬具の1つであるくつわ轡。棒状のものを馬の口にくわえさせ、馬をコントロールしました。これらルリスタン青銅器の中でも江上は特に馬具に関心を寄せています。

【初公開】



ルリスタン青銅器

イラン ルリスタン地方 紀元前1千年紀前半

江上の収集本を通して宗教や信仰心が生み出した造形や東西交渉の影響を示す具体例を紹介します。

### 中国の七宝技術で作られたごうす合子にアラビア文字

美しい輝きを見せる七宝焼きの合子の蓋に表されたアッラーの神をたたえる言葉。最新の研究成果を踏まえてその歴史的背景を紹介します。【初公開】

アラビア文字入り七宝合子

中国 清 19世紀



お問合せ先

横浜ユーラシア文化館 Tel 045-663-2424

副館長：伊藤 泉美 展示担当学芸員：竹田 多麻子 広報：神谷 量子